

## < 巻頭言 >

### 健康先進国に求められる文化に即した保健医療 —災害保健活動に焦点を当てて—

丸谷美紀

国立保健医療科学院統括研究官

### Culturally sensitive health care required for the healthiest country – focusing on health emergency and disaster

Miki Marutani

Research Managing Director, National Institute of Public Health

「日本の防災テキストの通りに行動したら、私たちは死んでしまう」

アジアの留学生から打ち明けられた言葉である。彼女が日本から贈られた防災教則本には「地震が起きたら机の下にもぐる」と書かれていた。しかし、母国は石造りの家が多く、地震の際に机の下にもぐったら、机もろとも押しつぶされて圧死してしまうということだった。「だから私たちは地震が起きたら家の外にできるように教えられています」

建築物に限らず、各土地には独自の生活様式や物の見方・考え方があり、文化という言葉で称されている。それらは時に災害への知恵も含んでおり、筆者らは文化に即した災害保健活動こそ人々のレジリエンスを高めると考え、その方法を追究している。

本特集号は、2018年9月と2019年2月に開催した「環太平洋島嶼国における地域の文化に即した全人的災害時保健活動モデルの構築（文部科研費基盤B）」の公開検討会での講演を基に組み立てられている。文化人類学、コミュニティ学、災害看護学、文化看護学等の視点から7本の論文が掲載されている。全論文に共通するテーマは言うまでもなく「文化」であるが、読み進めるうちに読者は深く流れる別のテーマに気づくであろう。筆者の乏しい語彙力では、それは「愛」という言葉でしか表現することができない。生きとし生けるものへの愛—保健医療の根源であり、健康先進国に求められるものと思われる。非科学的とお叱りを受けるかもしれないが、愛を包んだ特集号をお届けしたい。